

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2022年7月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

①真剣な勤行・唱題で  
歓喜の行動

苦難を開く

勤行・唱題

②僧俗一致の折伏で広布  
へ躍進

諦めず

最後まで

③御報恩の登山と寺院参  
詣で人材育成渴仰恋慕・朝夕の勤行  
家庭訪問・寺院参詣・

支部総登山

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2022年6月12日の御報恩御講、創立記念虫払法要の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

## ① 講中のみなさまへ「人は善根を積めば必ず栄える」

世の中の戦争や犯罪をいくら正当化しても、これらの行為に「善」と「正義」は存在しない。仏法には「善根」という言葉がある。この「根」とは働きを起こす力をいい、草木の根が幹や枝を成長させる能力の基であることに由来する。善心が善行を生むのである。大聖人は南条殿の苦境の中からも絶えない御供養に対し仰せになった。「花は咲いて果となり、月は出て必ず満ち、燈火は油をさせば光を増し、草木は雨が降れば繁くなる。これと同じく人は善根を積めば必ず栄えるのである」と。(御書1446 趣意)後の南条家の繁栄は、総本山の開創と御本尊の厳護という信仰者の鑑として表われた。絶対善の源は妙法への信である。真実の善根を積むところ、人生境界の栄えが必ず生じる。喜びの勤行と唱題を重ね、喜んで妙法広布の人材となろう。

## ② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その23)

昭和55年8月の檀徒総会の後、宗門から住職罷免などの処分を受けた正信会僧侶らは、これを不服として裁判を起こした。さらに同年12月、元学会顧問の山崎正友弁護士の手記を取り上げ、日頭上人に対して血脈相承に疑問ありとして質問状を提出した。そしてこれへの回答がないことをもって血脈相承がなかったものと断定し、法主・管長でない者が行なった処分は無効であるとして、管長の地位不存在の確認を求める裁判を起こした。これにより、宗門は宗規による適正な手続きのもと、全員を擯斥処分に付したのであった。その後、正信会による管長否定の訴訟は、最高裁によりその請求は斥けられ、宗門が全面勝利の確定判決となり、罷免処分等の訴訟を最高裁は、宗教内の問題を判断不可能との理由に双方却下の判決を下した。(次回、不法占拠の寺院について)

## ③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(退屈の意味を考える)

「退屈」といえば、暇をもてあます、暇であきあきする意味で使われる。本来の意味は文字どおり、退き屈する、退却する意である。これは仏道を求める心がくじけ、また仏道修行の困難さに負けることからきている。法華経では、妙法へ帰命する信仰を仏道とし、信仰の生活はそのまま人生であると説く。人生も仏道なのである。生活に振り回される生活なのか、仏道を基盤とする人生にするのかで、同じ人生に大きな違いが生まれる。退屈は人生を放棄する境界なのである。人生は火宅の中に身を置くがごとく厳しいもの。法華経が教え示すものは、妙法への信仰のもと不退不屈の精神で人生に臨むとき、我が生命の尊厳や価値がおのずと表われる不可思議なる功德なのである。妙法の種を自身に植え、善根を成長させるべくお待ちしている。